

「宇宙一呑の精神力」

(昭和四十年 七月發行)

人間界の生活、地球の生活、宇宙の生活を理解する人を大度量をそなえた人という。天を知り、地を知るならば、何事があり、何事が起つても周章狼狽することはない。

精神界においては、天地を基準として法則に従うことが道である。人物を量るに度量の大きい、小さいという言葉がある。度量とは精神的な人の心の容積をいう。大度量は即ち世の中を量り知ることにはかならない。世の中を量り知る度量を起して、宇宙を量り知ることが大切である。人は五尺の體でありながら、精神的には宇宙を一呑みにする度量があるのである。言葉で宇宙を自由自在にするだけの力を神は人に與え給うている。神に通ずればどんな事でも、また天下の事は何事も判るのが現世である。

宇宙の真理を知って、己を知ることが出来る。個人完成をいくら祈つても、それは人の力では不可能である。宇宙大精神に則つて人の心に盛り込むならば、宇宙の教を知ることが出来るから、己の心が明らかになれば宇宙自然の神の御意思がよく判る。判ろうとするには先ず言葉で明白にするのである。宇宙に感謝し、言葉に感謝し、慎んで神の御意思そのままの生活の世界を造るならば、立ち処に人は神に通ずる。己の心が宇宙の神秘に對する持ちよう一つで神界に飛び入ることが出来るのである。